AERA
『AERA』2024年2月19日号（2月13日発売号）
広告掲載を元に再編集

世界の宝 富士山を 未来に 引き継ぐために

ゴミによる環境汚染、オーバーツーリズム……富士山は今、「悲鳴を上げて」いる。2013年の世界遺産登録から10年たったいま、山梨県が「富士山登山鉄道構想」を提案している。なぜ、登山鉄道が必要なのか？　アルピニスト野口健氏と長崎幸太郎・山梨県知事の対談で見えてくる富士山の未来とは――。

特別対談



野口健 アルピニスト

長崎幸太郎 山梨県知事

世界遺産登録から10年
山梨県が提案する富士山登山鉄道とは

文／北島あや　撮影／今村拓馬　デザイン／FROG KING STUDIO
制作／朝日新聞出版メディアプロデュース部ブランドスタジオ　企画／AERA ADセクション

TOPICS

富士山 登山鉄道構想 とは

２０１３年、富士山が世界遺産に登録された際、イコモス（ユネスコ世界遺産委員会の諮問機関）は、**❶来訪者数の増加によるオーバーツーリズムの解消 ❷観光大型バスなどの排ガスによる環境問題の改善 ❸信仰の場である富士山の景観をふさわしいものにする**、を今後解決すべき課題と指摘した。

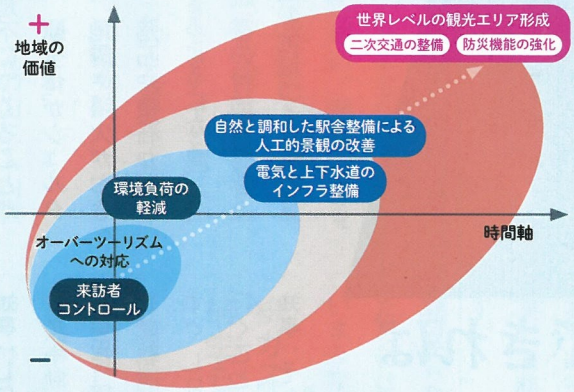
しかし、この10年間、三つの課題は解決しなかった。

こうした事態に直面した山梨県が考えたのが、富士山登山鉄道構想だ。

河口湖―富士山五合目間をつなぐ富士山有料道路「富士スバルライン」上の軌道に次世代型路面電車（LRT）を走らせる。既存の道路を活用するため大規模な開発は必要なく、LRTはワイヤレス給電など架線レスで給電するため、新たに電柱を立てなくて済む。

山梨県は、現状の課題を解決するだけでなく、富士山の100年先を見据えた交通手段と考えている。

100年後から見て誇れる 地域づくりのために



登山鉄道構想は、現状でマイナス部分のオーバーツーリズムの解消だけではなく、インフラ整備、世界レベルの観光エリア形成など地域の価値を上げることをめざしています



世界中から老若男女の観光客が集まるヨーロッパアルプスの登山鉄道のような存在に



山中を登るLRT

富士山を22世紀仕様にリデザインする



五合目の
駅のイメージ



車内のイメージ

地理院地図を利用して作成

[動画]
富士山の課題編

[動画]
登山鉄道編

令和6年3月
山梨県知事政策局富士山登山鉄道推進グループ 発行
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1
TEL 055-225-3967　FAX 055-223-1651
E-mail fujisan-rw@pref.yamanashi.lg.jp

いまこそ鉄道構想の実現にアクセルを踏み込む時期だ

来訪者の分散と満足度アップのために

世界遺産に登録されたあと、富士山五合目の来訪者数は増えた。コロナ禍直前の2019年には登録前の※2倍以上に達している。とくに夏は登山者が殺到し、弾丸登山などの危険行為も後を絶たない。混雑による満足度の低下も懸念されている。

登山鉄道なら冬の観光が可能に。来訪時期を分散することで、富士山を1年通して魅力的な観光地にすることが視野に入ってくる。

野口 健氏：僕はすべての山に入山料や入山規制が必要だとは思いません。ですが、富士山は特殊な山なので、国際基準で守っていく必要があるんじゃないでしょうか。

長崎幸太郎知事：入山料の徴収と入山規制は本格的にやろうと思っています。

野口氏：でも、道路に車両を通したままでは、入山料を取っても来訪者数を制限できないですよね。

知事：はい、そこで山梨県は「富士山登山鉄道」を提案しています。富士スバルラインを車両通行止めにして次世代型路面電車（LRT）を走らせる構想です。登山鉄道なら乗客数や運行本数を決められるので、確実に来訪者数をコントロールできます。

野口氏：なるほど。僕も富士山を守るためには登山鉄道しかないと思っていました。

排ガスをなくし、植生も本来の姿に

富士山の五合目には電気と上下水道が整備されていない。発電機用の重油や、トイレの水は麓からタンクローリーで運んでいる。来訪者は麓からバスで五合目をめざす。これらの大型車が出す大量の排ガスは、富士山の自然環境に悪影響を及ぼす。

排ガスを出さない登山鉄道は、大型バスに代わる富士スバルラインのクリーンな交通手段になる。

山梨県はLRTの軌道をつくる際、電気と上下水道のライフラインを整えることを検討している。実現すれば、タンクローリーが不要になるだけでなく、処理が追いつかずに不衛生になりがちだったトイレも気持ちよく使えるようになる。





野口氏：世界的に有名なヨーロッパの登山家が「いろんな山を登った中で富士山が一番汚かった」と話してから、登山家の間では富士山が〝汚い山〟の代名詞になっています。

知事：ショックです……。

野口氏：僕は20年前ほどから富士山の清掃活動をしていますが、ゴミやトイレの問題は本当にひどかった。

知事：五合目の電気や水のインフラも（LRTを）一緒に整えれば環境負荷はグッと減らせます。さらに、

※山梨県観光入込客統計（平成24年および令和元年調査）より



のぐち・けん　1973年米ボストン生まれ。17歳のときキリマンジャロ登頂。99年、25歳のときにエベレスト登頂に成功し、当時の7大陸最高峰世界最年少登頂記録を樹立。2000年から富士山清掃活動を始めた

鉄道ができれば富士山がよりクリーンで快適になる

バスをなくせば五合目にある広大な駐車場も必要ないので、コンクリート部分を埋め戻して、本来の植生を回復させます。これで、景観問題も解決できます。

野口氏：富士山がよりクリーンで快適な環境になりますね。

富士山周辺一帯のバリューアップ図る

富士山登山鉄道構想は、登山者の利便性を向上させるだけではない。

五合目駅は半地下につくることが検討されており、駅全体がシェルターの機能を持つ。地震や噴火がおきた場合に備えて、落石や噴石から命を守ることができるようになる。

さらに、周辺一帯の付加価値を上げ、「富士山周辺の地域づくり」も見据えている。

知事：ＬＲＴは、道路があればどこまでも軌道を延ばすことができます。

野口氏：確かに。たとえば河口湖駅まで軌道を延ばせば、電車を降りてすぐＬＲＴに乗り換えて五合目へ行くこともできますね。

知事：それだけではありません。富士五湖周辺に軌道を延ばせば、ＬＲＴの車窓から富士五湖を眺めることも夢ではありません。観光だけでなく、生活の場、創作活動の場としても生かされていく可能性が出てきます。

野口氏：ＬＲＴが通って冬にも富士山五合目に行けるのは、楽しみです。

知事：え、どうしてですか。

野口氏：いやあ、冬の富士山はいいんですよ。冬は空気が乾燥していて稜線などの景色がくっきり見える。銀世界の富士山は美しいですから、知事も見てください。

知事：それは知りませんでした。楽しみです。

野口氏：五合目で食事を楽しんだり、宿泊したり……。冬の富士山は魅力的な観光地になるはずです。

知事：ありがとうございます。「富士山登山鉄道構想」の実現に向けて、いまこそアクセルを踏み込む時期だと実感しました。

山梨県は２０２３年11月から富士山周辺で住民説明会を始めた。知事自ら構想を説明し、住民からの質問に答えている。こうした意見交換を繰り返すことで、構想の具体化を進めていく考えだ。





現在は駐車場になっているスペースには本来の植生が復活する